

湘南医療大学

ティーチング・ポートフォリオ

湘南医療大学 薬学部

准教授 細谷龍一郎

(令和8年4月26日 作成)

1. 教育の責任

湘南医療大学薬学部は「臨床に強い薬剤師の育成」を掲げており、これは現代社会において薬剤師に求められる資質を反映している。私が担当する教育活動においても、この理念に基づき、講義や実習に取り組んでいる。具体的には、私は3年後期の「調剤学」を担当しており、この科目は薬剤師として必要な基本的技能を支える知識を養う重要な科目である。さらに、実践に直結する「実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」へと繋がる内容も含んでおり、調剤学を基盤として臨床での実践力を育てることを目指している。また、「チュートリアル演習Ⅱ」では、薬学部1年から3年で学んだ知識を基に、実際の患者症例に取り組むことで、薬剤師としての臨床的な素養を深めている。この科目群を通じて、学生は単に知識を得るだけでなく、実際の医療現場で活躍できる薬剤師としてのスキルと態度を身につけることができると考えている。

私の講義や実習においては、常に「リアル感」を意識し、臨床現場をイメージしやすい内容を心がけている。具体的には、病院薬剤師としての私の経験を活かし、学生が実際の臨床場面で即座に役立つ知識や技術を学ぶ機会を提供している。これにより、知識や技術の習得だけでなく、薬剤師としての態度や責任感の育成にも力を注いでいる。

・担当科目、委員会

「調剤学」（薬学部3年前期）

「実務実習Ⅰ」（薬学部3年後期）

「チュートリアル演習Ⅱ」（薬学部4年前期）

「実務実習Ⅱ」（薬学部4年前期）

「実務実習Ⅲ」（薬学部4年後期）

キャリア支援委員会

OSCE実施委員会

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

私は薬剤師免許を取得後、15年間病院薬剤師として勤務し、調剤、注射調製、抗がん剤調製、医薬品情報提供（Drug Information）など、幅広い業務に従事してきた。その後、主に救急医療に携わり、多くの患者の治療に貢献してきた。この経験を通じて、患者の命に向き合う姿勢や、他の医療従事者との連携が非常に重要であると強く感じるようになった。薬剤師は医療職の中でもジェネラリストとして、医薬に関する幅広い知識が求められる。そのため、大学で得た知識や技術を実践に活かし、臨床現場での問題解決に繋げることが必要不可欠である。

私の教育理念は、臨床現場で生きる知識と技術を身につけ、他の医療職と連携して臨床課題を解決できる薬剤師を育てることである。大学生活全般を通じて、学生には臨床

現場での薬剤師の役割を具体的にイメージさせ、現代の医療ニーズに応える薬剤師として成長してもらいたいと考えている。

2) 理念をもつに至った背景

私は救急医療の現場に加え、日本における災害医療の現場にも携わってきた。これらの経験を通じ、多様な医療環境で医師や看護師と連携しながら、患者の薬物治療を担ってきた。特に急性期医療や被災地での医療現場では、大学で学ぶ薬学的な知識や技術だけでは不十分であり、他の医療従事者との共通言語や知識を持ち、円滑なコミュニケーションを取ることが求められる。また、薬剤師としての視点からの適切な意見が、患者の治療に直接影響を与えることもある。このような場面では、薬剤師の知識や提案が患者の命に直結することを実感し、その責任の重大さを強く感じてきた。

こうした経験から、大学教育では臨床現場で実際に役立つ知識や技術を教えるだけでなく、他の医療職との円滑なコミュニケーション能力を養うことも重要であると考えている。今後担当する急性期医療や災害医療の講義では、薬剤師として患者を救う感覚を学生に伝え、私の教育理念に基づいた実践的な教育を行っていききたいと考えている。

3. 教育の方法・戦略

・概要

私は、「臨床現場で生きる知識・技術を有し、臨床課題について他医療職とともに解決できる薬剤師を育てる」という理念を実現するため、対話、アクティブラーニング、そして自主性を重視した実習に力を入れて講義や実習を構成している。3年後期の「調剤学」の講義では、学生が知識をアウトプットする時間を設け、理解の定着を図っている。実習や演習では、学生の自主性を尊重し、テクニカルな指導にとどまらず、学生が自ら試行錯誤できる時間を確保している。また、チューター活動や日常の学生指導では、個々の性格に応じた対話を積極的に行い、薬剤師としての素養を学生が6年間を通して身に付けられるようサポートしている。

・アウトプット時間を取り入れた講義形式

薬剤師が必要とする知識には、記憶による習得が必須となる分野も多い。私が担当する「調剤学」はその一つであり、覚えるべき項目が非常に多い。試験前の短期間の暗記では、薬剤師共通試験や国家試験への対応が難しいため、講義では「アウトプット」「解説」「インプット」の順で進行している。具体的には、講義の冒頭で学生に現時点での知識を紙に書き出させ、それを基に対話を通じてアウトプットを行う。このプロセスにより、学生自身が現在の知識量を把握し、講師との対話を通じて知識の重要性を理解す

る。その後、関連する単元の講義を行い、新しい知識を吸収させるという流れである。

- ・アクティブラーニングを取り入れた演習

4年前期に実施される「チュートリアル演習Ⅱ」では、アクティブラーニングを活用している。特に、私が担当する救急医療や災害医療に関する項目では、学生が臨床医療をより具体的に意識できるよう、病院薬剤師として勤務していた際の実例をアレンジして用いている。学生には、医師、看護師、薬剤師の役割をそれぞれ分担させ、実際の医療場면을シミュレーションさせる。学生たちは医師役や看護師役とのコミュニケーションを体験し、その中で浮かび上がる課題に対してディスカッションを行うことで、臨床解決能力を養う。また、ディスカッションの結果をもとに、再度ロールプレイを行い、医師、看護師、患者へ説明することで、実践的な学びを深めている。このように、臨床現場を強く意識させる演習を通じて、学生は薬学知識のアウトプットを行うだけでなく、コミュニケーション能力や薬剤師としての素養を高めている。

4. 学習成果

- ・「調剤学」の授業においては、授業評価アンケートにおいて学生から高評価を得ている。特に、講義資料の更新や視覚的に見やすいスライドの作成が評価されており、学生からは「理解しやすい」との意見が多く寄せられている。また、学生が知識をアウトプットする形式の講義は、知識の定着に効果的であると感じているとの声が多く、学びの成果が表れていると考える。

- ・「チュートリアル演習Ⅱ」では、出席率が非常に高く、授業への積極的な参加が見られる。また、ディスカッションにおいても多くの学生が積極的に発言しており、学生の主体的な学びの場として機能していると感じる。欠席した学生に対しても補講を実施し、全員が内容を理解した上で進められるよう配慮している。講義の各回において、個人レポートの提出を課しており、提出率は90%以上である。学生のレポートに対し担当教員は評価を行い、1～2行程度のコ멘トを残しており、そのことについては授業評価アンケートでも好評である。

- ・「実務実習事前学習」においても、授業評価アンケートでは高評価を得ており、特に実際の薬剤師業務を模した演習においては、学生が実践的なスキルを磨く機会を提供できていると感じている。学生は長時間の実習にも関わらず、集中して取り組んでおり、実際の医療現場を強く意識した学びができているとの評価を受けている。

5. 改善のための努力

- ・座学形式の講義の単調さ

座学形式の講義において、一部の学生が受け身の姿勢を取り、場合によっては退屈に感じていることが課題である。特に、講義の途中で注意力が途切れ、集中力が低下す

る学生も見受けられる。この問題に対して、講義資料に問いかけや興味を引くコラム的な内容を盛り込むことを試みている。また、学生が積極的に講義に参加できるよう、インタラクティブな要素を取り入れ、リアルタイムでの意見交換や質疑応答の時間を増やすことで、講義の活性化を図っている。この取り組みは、本年度から実施しており、学生の関心を引き続ける効果を期待している。

- ・生活習慣がつかない学生への対応

一部の学生において、欠席が多く単位取得が困難になるケースが発生している。この原因として、学習習慣や生活リズムの乱れが影響していると考えられる。これに対しては、早期の段階で学生の出欠状況を把握し、問題がある学生に対しては個別に声掛けを行い、学習や生活面での支援を強化している。また、定期試験前に勉強会を開催し、学生が試験対策を計画的に進められるようサポートする取り組みを進めている。このような対策により、学生が早い段階で学習の習慣を確立し、欠席を減らすことを目指している。

6. 今後の目標

- ・長期目標

私は、自身の臨床経験を十分に活用し、対話を重視した講義や実習を通じて、学生の学力向上と薬剤師としての素養の底上げを目指している。この目標を実現するため、今後も教育スキルの向上に努め、講義や演習の内容を学生にとって実践的で価値のあるものにするための改善を続けていく。また、学生との対話を通じて、個々のニーズや理解度に応じた指導を行い、薬学生が社会に出た際に即戦力となるような教育を継続して提供していく。

- ・短期目標：

- ① 講義資料の作成と更新

2026 年度前期および 2026 年度後期に担当する講義（「調剤学」および「チュートリアル演習Ⅱ」）に向けた講義資料の作成・更新を 2026 年 6 月までに完了させる。特に、対話形式やアクティブラーニングを取り入れた講義形式をさらに強化し、学生が積極的に学べる環境を整える。また、講義資料の視覚的改善や、最新の医療現場のトピックを反映させた内容にアップデートすることで、学生の興味を引きつける工夫を行う。

- ② チューター担当学生の進級サポート

2027 年度までに担当するチューター学生全員の進級を目指す。これを達成するために、定期的なチューター会の開催や、学習面だけでなく生活面でも継続的に支援を行う。特に、出欠状況や学習習慣に問題がある学生に対しては、個別にサポートを行い、学生一

人ひとりが置き去りにならないよう、密なフォローアップを実施していく。また、担当の卒業研究生の卒業研究の進捗を見守り、研究発表、卒業論文作成の指導を実施する。

③ OSCE の円滑な実施

2026 年度に実施予定の OSCE（客観的臨床能力試験）の実行委員として、6 月に実施されるトライアル、および12月実施予定の本試験が円滑に進行するよう準備を進める。特に、受験生全員が合格できるよう、事前指導や練習機会の提供に力を入れる。また、初の試験実施にあたり、運営側としても改善点や課題を見つけ、次年度以降に向けたスムーズな試験運営を目指す。

【添付資料】

湘南医療大学薬学部 シラバス

各科目の配布資料

各科目小テスト、定期試験問題原本

授業評価アンケート

チューター活動記録